

川瀬巴水と新版画



川瀬巴水「増上寺の雪」昭和28年

川瀬巴水を生んだ大正新版画が生まれて100年になります。江戸の浮世絵が衰退し、大正中期により優れた技法で渡邊庄三郎を中心として浮世絵を再興する運動が起きます。それが新版画の誕生です。

当初は輸出用に作られ、江戸時代の木版画に比べ新版画は摺り度数が圧倒的に多く30～40度摺りをして、木版画とは思えない臨場感あるリアルな作品に仕上げ、外国人に大変喜ばれ多くの美術館やコレクターに収集され、スティーブ・ジョブズ氏もその一人でした。



伊東深水「髪」昭和27年

最後の浮世絵、新版画がもつ魅力は日本文化そのものです。ゆっくりと時間をかけて成熟した日本人の心がそこにはありません。相手の事を考え、思いやり、ものを大切に、ものづくりが好きで得意なのが日本人であり、日本の文化です。

川瀬巴水(本名：文治郎)は、大正7年35才で風景画の絵師として新版画の中心的作家となり、亡くなる74才まで40年間にわたり、日本中を旅し600点以上の作品を残しました。海外では北斎・広重と並び称され、頭文字から風景画の3H(Hokusai, Hiroshige&Hasui)とも呼ばれています。(新版画には他にも橋口五葉、吉田博、伊東深水など30名位の絵師がいます)

それと、昭和7年には旧鉄道省が世界に向け日本への観光を呼びかけるため、巴水の木版画B全ポスター1万枚を1年かけて作り世界に発信しました。また、戦後数年間巴水の作品(増上寺の雪)と伊東深水の作品(髪)が二点セットで日本を訪れた国賓の方々に日本政府からプレゼントされていました。この二点の作品の原画・版下・版木などは全て東京国立博物館に収蔵されており、常設展などで見ることが出来ます。そして巴水を知り日本の伝統文化である木版画を知ることにより、それが環境問題であり、人間関係の大切さであり、日本文化の危機でもあることを知ってほしいのです。100年前の先人の教えを私たちがの時代でなくしてはなりません。これからの百年にどう繋げるか、今を生きる私たち日本人の大きな責務ではないでしょうか。

そのためにも是非一人でも多くの人に知っておいて頂きたい日本人の一人が巴水であり、その作品の背景・裏面・画家の思いなどをも見、知ってもらえれば幸いに存じます。そして又、日本文化の泉ができることを切望しています。

国際新版画協会(I.S.A.)会長 鈴木 昇



川瀬巴水 昭和14年撮影

川瀬巴水 明治16年(1883)-昭和32年(1957)

明治16年(1883)、東京都芝区(現港区)で生まれる。25歳で父親の家業を継ぐが画家になる夢を諦めきれず、日本画家・鏑木清方の門を叩いたが、20代も半ばを過ぎた遅い始まりに難色を示され洋画家の道を進められた。白馬会葵橋洋画研究所に入り岡田三郎助から洋画を学ぶ。しかし洋画の世界では挫折を経験し、明治43年(1910)27歳の時、一度は入門を断られた清方に再度入門を申し出て許され、「巴水」の画号を与えられる。大正7年(1918)、伊東深水の版画「近江八景」に影響を受けて版画家に転向。同年に塩原三部作を制作、数々の作品を渡辺版画店より発表し始める。以降、生涯にわたり風景版画を数多く刊行。昭和27年(1952)「増上寺の雪」が伊東深水「髪」と共に無形文化財技術保存記録の作品に認定された。昭和32年(1957)、自宅において胃癌のため死去。

川瀬巴水講演日程 Hasui Kawase Lecture schedule

1回	1月10日(水)	午後3時～4時	巴水の生き方、どんな人	講師：鈴木 昇
2回	1月11日(木)	午後1時～1時30分	ギャラリートーク	講師：渡邊章一郎
3回	"	午後3時～3時30分	ギャラリートーク	講師：渡邊章一郎
4回	1月13日(土)	午後3時～4時	大正新版画と巴水	講師：鈴木 昇
5回	1月14日(日)	午後3時～4時	巴水の仕事と横顔	講師：鈴木 昇



講師 渡邊章一郎 Profile

- ・渡邊木版美術画舗代表取締役
- ・国際浮世絵学会常任理事
- ・国際新版画協会(I.S.A.)理事
- ・開運！なんでも鑑定団鑑定士



講師 鈴木 昇 Profile

- ・ギャラリーヌーベル代表取締役
- ・国際新版画協会(I.S.A.)会長
- ・国際浮世絵学会会員
- ・日本民藝協会会員
- ・巴水とその時代を知る会顧問